

## 1 目的

道では、アライグマによる生態系や農業等への被害の防止を図るため、モデル地域（南幌町）において、野生化したアライグマを捕獲し、その生態データを収集するとともに、捕獲の省力化の検証を通じ、それらを活用した効果的・効率的な捕獲モデルを確立する。

## 2 課題及び現状

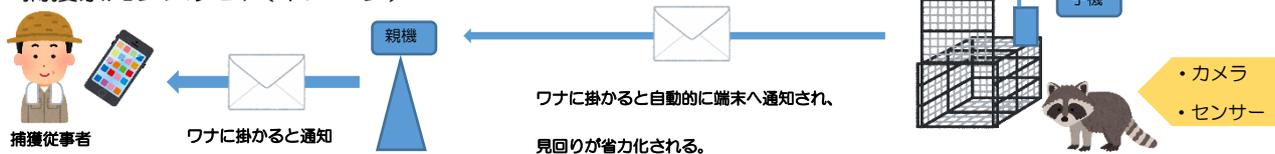
- ・生息域がほぼ全道域に拡大したことに伴い農業被害額も過去最高に増加。
- ・アライグマの繁殖力が高く、地域における生息数を減少させるためには、複数年にわたり生息数の半数以上を捕獲することが必要。
- ・捕獲に従事する人材などが不足（市町村職員の負担増）。

## 3 事業内容

区分	内容
実証事業	○モデル地区で捕獲察知システムやカメラなどのICT技術を活用し実証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生息数の半数以上を複数年にわたり捕獲するためモデル地区において捕獲作業を行い、生息数推計のためのデータ収集。</li> <li>・ねぐらや行動経路と推測される場所を撮影し、データを蓄積。</li> <li>・捕獲作業の効率化及び省力化。</li> </ul> ※ モデル地区：より多くのデータを蓄積する必要があることから、全道でも農業被害額及び捕獲頭数が多い空知管内の市町村から選定。（南幌町）
事業分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な捕獲のため、生息密度の予測と習性を踏まえた捕獲方法を分析し、根絶に必要な年間捕獲プログラムを作成。</li> </ul>
対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺市町村からの流入を防止するための協力体制の構築方法を検討。</li> <li>・捕獲にあたり不足する人手について対応策を検討。</li> </ul>

新たなアプローチ

～捕獲察知システム（イメージ）～



## 4 事業計画(予定)

区分	R2	R3	R4
実証事業	モデルエリアでの捕獲 各種データ収集	前年度事業結果を踏まえ 捕獲手法の検討	各種新手法による 捕獲効果の検証
事業分析(プログラム)	草案	原案作成	完成
対策協議会	設置・検討	継続検討	継続検討

## 5 R2年度スケジュール(予定)

区分	6月～7月	8月～9月	2月～3月	3月
捕獲作業	うち、42日間	うち、15日間	うち、15日間	事業終了
事業分析	収集したデータ等から分析を実施			事業終了
対策協議会	設置・開催(コロナウィルスの状況を鑑み、随時開催)			